

執筆者紹介（執筆順）

劉 金標（りゅう きんぴょう）	巨大機械工業股份有限公司（ジャイアント） 董事長（当時）
三尾 裕子（みお ゆうこ）	慶應義塾大学文学部
福永 玄弥（ふくなが げんや）	日本学術振興会
林 美容（りん びょう）	慈済大学宗教・人文研究所
劉 智豪（りゅう ちごう）	中国社会科学院
白井 魁（しらい かい）	一橋大学言語社会研究科博士課程
田上 智宜（たのうえ ともよし）	大阪大学言語文化研究科
宮岡真央子（みやおか まおこ）	福岡大学人文学部
堀内 義隆（ほりうち よしたか）	三重大学人文学部
星名 宏修（ほしな ひろのぶ）	一橋大学言語社会研究科
黒崎 岳大（くろさき たけひろ）	太平洋諸島センター

編集委員（五十音順）

上水流久彦（委員長）、北波道子、澤井律之、松田京子、松本充豊、
三澤真美恵（副委員長）、三須祐介。
長谷川健治（英文アドバイザー）

編集後記

ようやく、第19号をお渡しできることとなりました。発行にあたりましては、今号も一般財団法人台湾協会からご支援をいただいております。厚く御礼を申し上げます。ご支援のもと、今回は、昨年に宇都宮大学で行われたジャイアントの劉金標会長の講演記録、論文3本、研究ノート1本、書評5本を掲載することができました。論文は、文化人類学、社会学領域の3本でやや少なめですが、書評が5本あり、例年になく充実したものになりました。書評は昨年に続いて、書名以外に書評タイトルを入れており、読者の関心を引くものになっているかと思えます。

今号発行においては、執筆者、査読を引き受けてくださった学会内外の方、文成印刷の皆様にご心より御礼申し上げます。加えて、投稿してくださった会員の方にも御礼を申し上げます。今回は11本の投稿論文がありました。採択率は例年に比べて低いですが、個人的には今後の日本台湾学会の研究が期待できるものでありました。掲載される論文は執筆者と査読者との共同作業のもと生まれてくるものです。他学会では投稿者と査読者が対等な関係にあることが忘れたかのようなコメントがあるとも聞きます。他方、本学会の査読は、投稿原稿の質的向上に寄与する良質なコメントからなっています。その点、編集委員として大変うれしく思っています。

近年、日本では台湾の存在がより身近なものになり、台湾に遊びに行くという人々とも多く出会います。このような状況のもと、日本と台湾とを結び、台湾について真摯に研究する会員からなる本学会の存在価値は一層重要なものになります。そして、会員の研究成果を会員以外にも公開することは、本学会の重要な社会的貢献になろうと考えています。例えば、今号の劉会長の講演記録は一般の方々の関心も高いと思います。学術雑誌としての本分は忘れずに、新たな学会誌の在り方を模索する時代が来ているのかもしれない。そう考えながら編集作業を行った第19号でした。

(編集委員長 上水流久彦)

日本台湾学会報 第19号 2017年10月15日発行

編集・発行：日本台湾学会『日本台湾学会報』編集委員会
〒261-8545 千葉県美浜区若葉3-2-2
日本貿易振興機構 アジア経済研究所
佐藤幸人研究室気付
E-mail：nihontaiwangakkai@gmail.com
ウェブサイト：http://www.jats.gr.jp/